

# 公共交通利用促進MMから展開するまちづくり活動 —仙台市青葉山・八木山地域におけるフットパスづくり活動報告—

青葉山・八木山フットパスの会世話人 岩崎 裕直（公益財団法人 仙台市建設公社 常務理事）

## 背景と目的

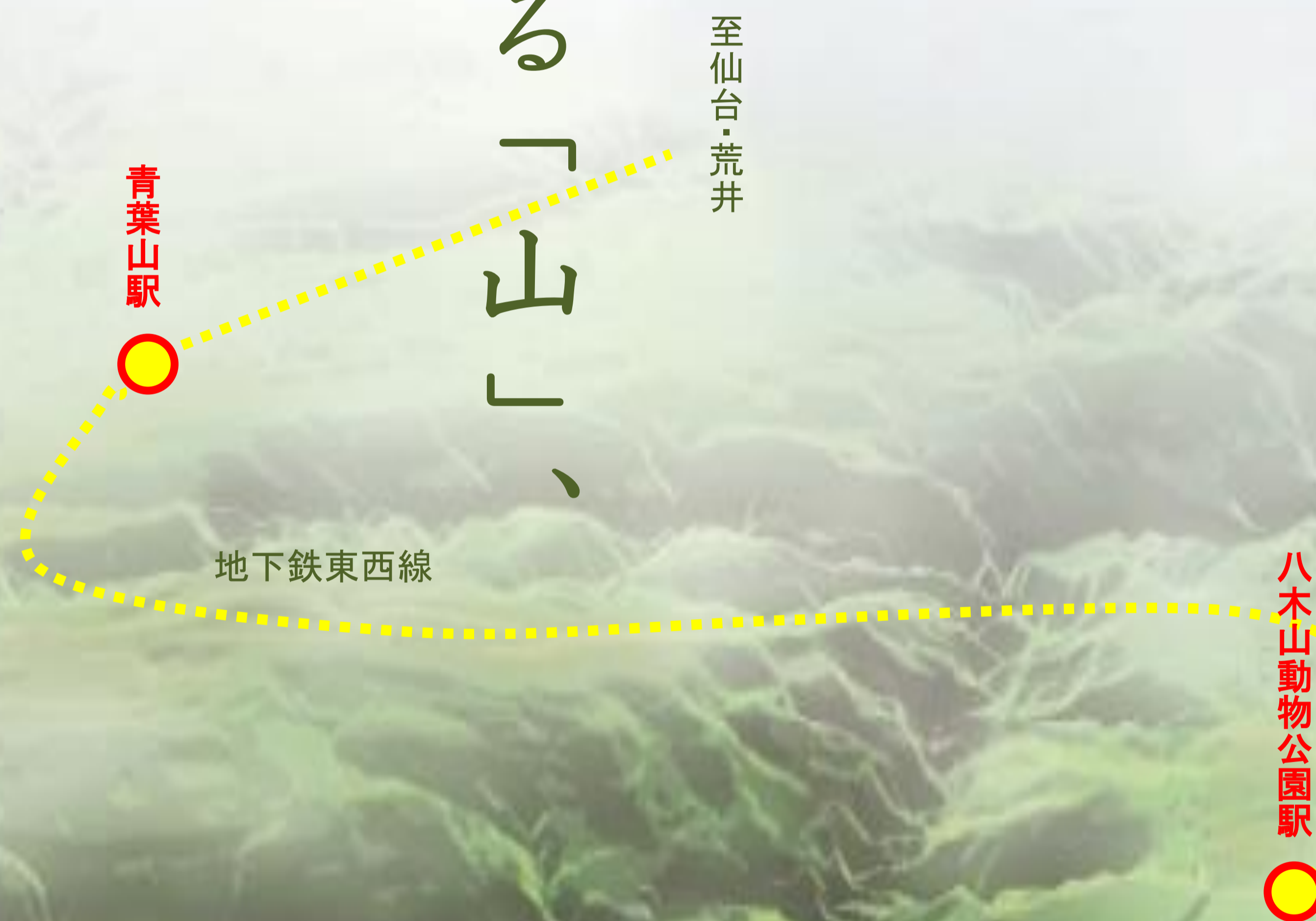
2015年12月6日に仙台市地下鉄東西線が開業した。同鉄道の利用促進MMとして各駅周辺マップづくりを展開し2017年JCOMMデザイン賞を受賞した。

そのうち青葉山駅と八木山動物公園駅周辺の地元住民等は行政界や地形で分断化していたが、隣駅同士として、両地域に顕在する魅力を多くの市民や来街者に散策しながら触れあえることができるようフットパスづくりが必要と共感し「青葉山・八木山フットパスの会」が2017年2月に発足した。

2017年度より同会の活動を開始し、仙台中心部から地下鉄利用で駅から5分足らずで自然林や峡谷の中に佇むことができることから地域の魅力を創出・発信・体感できる取組みを実施してきた。

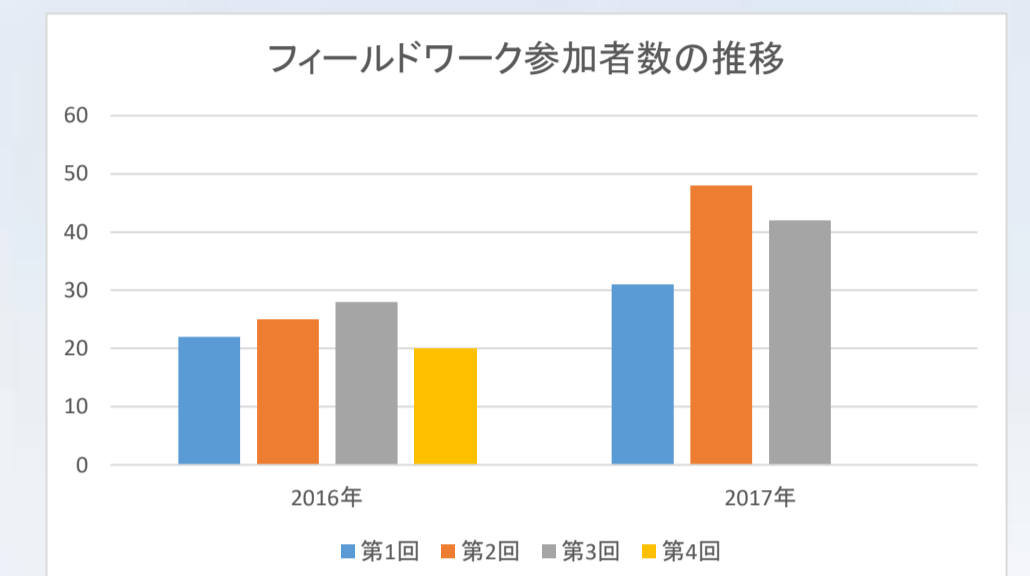
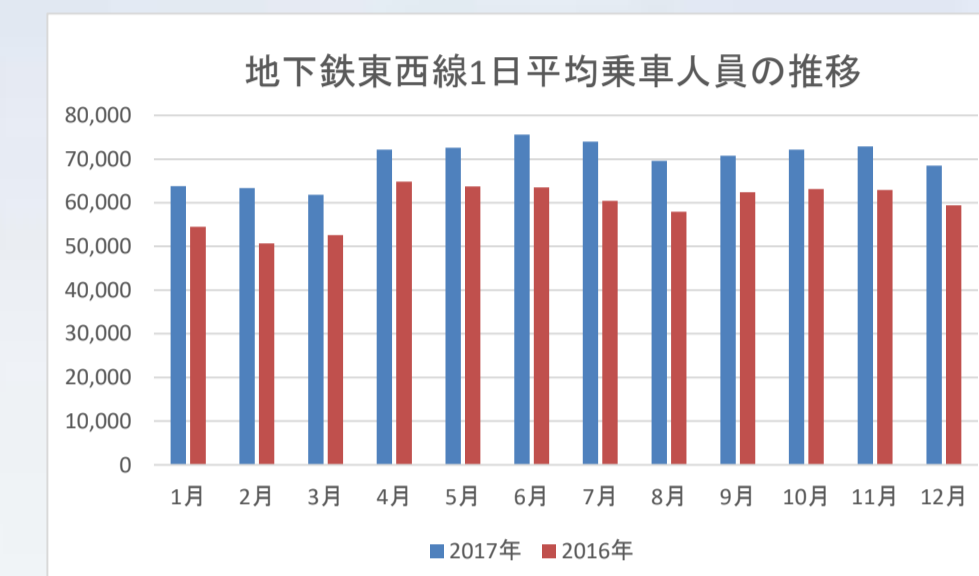
同会の2017年度活動状況を外部に周知・発信等により、新たな来街者を誘引し、鉄道利用を促進していくものである。

地下鉄駅前に広がる「山」、歩きませんか。



## 事業の効果

- ①フットパス活動は、自然が豊富な竜ノ口沢や青葉の森、八木山動物公園等の魅力的な地域資源を単体で利用するのではなく、これらを巡るという新たな利用形態を生み出し、将来的な観光客の増進及び地下鉄利用の促進が図られる。
- ②ワークショップや清掃などの活動を通して、行政区の異なる両地区の交流が促進されると共に、地域自慢の魅力を発信でき、まちづくりに貢献する。
- ③鉄道駅から歩いて5分足らずで雄大な自然に触れることができ、鉄道利用促進のほか外出率向上にも貢献する。
- ④多くの市民に魅力が伝わると観光利用面で促進につながるだけでなく、訪れる方々の健康増進にも貢献する。
- ⑤他方で生涯学習面だけでなく小学生の自然観察や郷土史学習にも役立つ。



## 事業の概要

- ①青葉山・八木山一帯を歩くフィールドワーク(FW)を3回開催し、フットパスコースの魅力を体感すると共に清掃活動実施。
- ②学習会(+ミニ散策)としてワークショップ(WS)を4回FWと交互に実施し、地域資源の学習と散策ガイドの内容を検討する。
- ③FWやWSの成果を参加会員の協力を得てその都度取りまとめ、フットパス通信として第1~6号発行し、各400部作成し無料配布(市民センターほか15箇所に配備)。
- ④これまでの成果を集大成した散策ガイドマップ(有償)を2,000部作成。
- ⑤その他両地域近傍の市民センターとの連携した取組み(金剛沢市有林散策路サイン整備、竜の口峡谷親子探検)を行った。

## フィールドワーク

第1回「青葉山・八木山を味わう」  
2017年4月22日(土)参加者31名

第2回「有史以前・以後の青葉山の住人を訪ねる」  
2017年9月9日(土)参加者48名

第3回「八木山遊歩」  
2017年12月16日(土)参加者42名

## ワークショップ & 散策ガイドマップ制作

第1回WS:20名参加  
2017年6月25日(日)

第2回WS:19名参加  
2017年10月29日(日)

第3回WS:18名参加  
2018年1月20日(土)

第4回WS:27名参加  
2018年2月24日(土)

第4回WS(ミニ散策)

## フットパス通信の発行

・コースの魅力を伝える  
・レクチャーでの学びを共有

・プロセスの共有  
・多くの会員が制作に参加